

会報

2012 ▶ 2013
WEEKLY REPORT



奉仕を通じて
平和を

田中作次

2012-13年度
国際ロータリー会長

留萌
ロータリークラブ
会長 目標

ロータリーを楽しく・
学び・奉仕しよう

会長 / 山本讓二 幹事 / 森 幹雄

プログラム

- 本日
 - ガバナー公式訪問例会
 - 結婚記念日
9月3日 大嶋 孝広
- 次週予定
 - 来賓卓話 / 地域おこし協力隊
大野 菜摘 様、西岡 潤二 様

No. 2524

第8回 8月29日

出席報告

前例会

会員総数	43名
出免会員	10名
出免出席	5名
基準会員出席	26名
出席率	74.41%

前々会

第5回	7月28日
欠席会員	0名
内メイクアップ	0名
修正出席率	100.00%

例会 / 毎週水曜 12:15~13:15 留萌産業会館2F

会長報告

- 8月20日に砂川市にて開催されました、2510地区主催の大震災救援プロジェクト事業に出席して参りました。福島(飯館村)の子供たちの為に留萌RCからはホタテ100枚、豚ジスカン30kgを提供してきました。ちなみに子供たちの評判は豚ジスカンが大変好評で、松尾ジンギスカンよりおいしいとの事でした。出席者は清水ガバナー補佐、森ガバナー補佐室長、田中会場監督、森幹事そして私です。
- 来週のガバナー公式訪問の詳細日程が決まりました。後ほど幹事より連絡がありますが、よろしく願います。

幹事報告

- 赤平RCより、会報と9月例会案内を受領しました。
- 砂川RCより、9月例会案内を受領しました。
- 第29回交通安全運動推進実行委員会より、旗の波運動に参加の礼状が届いております。
- 留萌市ゲートボール協会の渡邊正美会長に創始者杯の大会祝い金を届けて参りました。

ゲスト

留萌自衛隊 持続走訓練隊

監督 磯崎 裕之様
(随行者) 豊田 拓矢様 菊池 良博様

👤 委員会報告

社会奉仕委員会 辻本委員長

8月24日(金)にそらぷちキッズ・キャンプ支援事業として、滝川市の丸加高原にて海鮮バーベキューをいたします。集合場所は留萌商工会議所駐車場で、午前8時45分集合です。

今のところ参加者は、山本会長、森(幹)幹事、森(俊)副会長、田中会場監督、高橋会計、二ノ宮会員、遠藤会員、佐々木会員と私です。

タイムスケジュールは、

8:50	出 発
10:00	準備開始
11:30	焼き始め
12:00	スタート
14:00	終了、後かたづけ開始
14:40	現地出発
16:00	留萌到着予定

参加可能な方はぜひご連絡ください。

📦 ニコニコBOX

- ・CDいただきました 大変ありがとうございました 山本会長
- ・ありがとうございます 二ノ宮会員

前 回	209,000円
今 回	11,000円
累 計	220,000円

📖 プログラム

「秩父宮記念 第37回

富士登山駅伝競走大会を終えて」

留萌自衛隊

持続走訓練隊 監督 磯崎 裕之様

留萌ロータリークラブの皆様、はじめまして、私は留萌自衛隊の磯崎と申します。本日は、留萌ロータリークラブ例会の貴重なお時



間をお借りいたしまして、お話をさせていただきます。

皆様のお手元に今年の大会の結果を配布させていただきますのでご覧下さい。

まずは私の自己紹介をさせていただきます。名前は磯崎裕之です。出身地は旭川市の春光です。昭和41年8月生まれで、今月で46歳になりました。家族構成は妻と犬2匹です。職歴は先ほどご紹介をしていただきましたが、昭和61年に入隊しまして、第9普通科連隊が旭川にあり、現在はありませんが、その第3中隊に入りました。平成7年に改編になり、第26普通科連隊、現在の第4中隊が旭川に1コ中隊あり、そこに編入しまして、平成10年に一度留萌に4年間勤務した事があります。陸曹時代ですが、平成14年にまた旭川に戻りまして、平成16年に第1次イラク復興支援軍として2ヶ月ほどイラクで活動いたしました。平成20年に幹部に任官をしまして、対戦車中隊も潰れたのですが、対戦車中隊に3年半おり、改編になる時に災害派遣がかりました。昨年の改編後また第4中隊に戻ってきました。旭川と留萌を行き来しております。

本題に入りますが、私も詳しくは知りませんが、富士登山駅伝は復活後昭和51年から37年続いている歴史ある大会です。大正時代から富士登山競争、昭和時代には駅伝大会として戦前・戦後にも行われました。

留萌自衛隊が参加し始めたのは、平成7年からで、今年で18年目となります。留萌自衛隊は第2位が1回、第3位が今年を含めて5回と、全国でも名の知れた強豪チームです。初代監督はOBの佐々木末治監督です。留萌自衛隊の強い訓練隊を築いてくれた功労者です。2代目は現役最先任陸曹の近藤監督、3代目は広報幹部の小林監督、4代目新藤監督、そして持続走素人5代目が私、磯崎です。

大会コースは静岡県御殿場市の陸上競技場をスタートし、富士山頂を折り返しとする全長が46.76kmを11区6人で走ります。昔は御殿場駅前がスタート地点でした。御殿場陸上競技場をスタートし、1区間5.48km京極町出身の第4中隊三浦雅史が走り、2区間4.64kmをチーム最年

長のベテラン第1中隊の加藤正彦、第3区が札幌出身で初出場の高橋彰が4.54kmを走り、第4区を第2中隊新名洋二、第5区を第4中隊新井健太郎が走り、そして第6区が留萌自衛隊の山の神と呼ばれる佐藤龍一が走りました。この6区だけが、一人で山頂まで登り、そして下るというレースで一番過酷な区間です。1区から5区までの選手は櫓を渡すと、下りもまた櫓をもらい走ります。一人2回走る駅伝はここしか無いと思います。とても過酷な競技でして、登りは、例えば5区の新井健太郎で見ると、50分位で登りますが、下りは7～8分位で降りてきます。昔ここでテレビの放映があった時には、ここがすごく有名な場面で、転んで櫓を渡す、転びながら櫓を渡すコースです。その後が舗装道路になりますが、舗装道路を走るのも大変で足の裏が焼けるように熱くなります。足の裏の皮が剥ける選手も多くいます。

今回我々の成績は、第1区は三浦選手が4番で櫓を渡し、2区は加藤選手が6番、3区は高橋選手が5番でして、たしか後援会の方がこの後の太郎坊の上の方で応援していただいて新名君が4番まで上げて、新井健太郎君で少し5番まで落としたのですが、6区は佐藤龍一君が5番で櫓を受けて、3番まで上がりました。因みに佐藤龍一君は今年も区間賞で、全国で一番速い選手です。新井健太郎君が佐藤龍一君に3番で櫓を渡した時、トップとは7分半の差でしたが、下りで佐藤龍一君が新井健太郎君に櫓を渡す時には3番手でしたが、トップとの差は僅か30秒まで縮まっておりました。そして新井健太郎君が下りで2個チームを抜きましてトップに躍り出ます。その時には会場での後援会の方々もアナウンスを聞き、大変盛り上がりました。18年で初めて留萌が1番になった瞬間です。

アナウンスされた時には既に選手は、通過地点を通り過ぎ私の所には最新の順番が届き、順番が入れ替わっておりましたが、後援会の方々やFMもえるの村山さんなどは絶叫していました、さすがに、現在は3番ですとは言えません。この時には1位から4位までは一緒に降りて来ていますので1分以内に入っておりま



すので、私自身の本音を言いますと、何とか3位に入って欲しいと思ったのが正直な気持ちです。

1番を目指したかったのですが、北海道のチームはロード力が無くて、登りや砂の下りは強いのですが、ロードの力がまだまだ足りないと思います。昨年も4番で降りてきたのですが、6番になってしまいました。ロードの強化が我々の目標です。富士山は3700mありまして自分たちの区間は1ヶ月位訓練しておりましたが、やはり地元の滝ヶ原自衛隊は強くて、何と言っても練習場がこのコースというホームコースですので、大変です。留萌はアウェイですが、この様に後援会の方々の応援をもらっておりますので、チームとして手ぶらでは帰れないという気持ちが本音でございました。

それでは昨年の言い訳をさせていただきます。昨年は第6位に入賞いたしましたが、これは後援会の力であると感じました。昨年は皆様ご存知の通り震災がありまして、震災の救援に私以下選手は皆派遣されまして活動しました。4月には一時帰ってきましたが、その間、選手は一度も走ってはおりません。留萌の連隊長も参加できるか分からないと言っており、このまま活動が続けば参加は無理だとの事でした。

しかし選手はやはり今年も出たいと言っており、後援会の方も今年も出るのだろうかと言っておりましたので、私も監督を引き受けどうしたら良いものかと考えていたのが本音でございます。5月の中旬に出ると決め、それから練習を始めましたので本番まで2ヶ月の練習期間でした。

後援会の後押しがなければ参加も出来なかつ

第7回 8月22日(水) 天候/晴

ただろうし、6位入賞は無理だったと思われますが、昨年の6位がなければ、今年の3位もまた無かったと思います。

私は先にも話しましたが、第5代目の監督ですが、歴代監督と違いまして駅伝の選手ではありませんでした。体型を見ていただければわかると思いますが実は駅伝は素人で、私はスキーの教官などをさせていただいておりました。たまたま、監督が不在となり私が襲名をいたしました。大会に出るに当たって本当に苦労したのが、選手とのコミュニケーションでした。選手が監督を信頼できなければ絶対に強いチームは出来ないというのが、私が2年間で感じたところです。

昨年チームに怪我人が出まして、やはり災害派遣で全然練習もしないのに、急に練習させまして、今年1区要員の三浦2曹が昨年怪我をしてしまい、1年間走れませんでした。それで昨年1区に若手の起用をしましたが、1区は荷が重く大ブレーキとなってしまいました。やはり怪我人がでると大変戦力に痛手をこうむります。それと昨年でレースを引退するといっていた新名選手ですが、レースに家族も呼んで頑張りましたが、練習不足により思ったように走れず、悔いが残ると言う事で、今年もう1年頑張るとのことで、4区を走ってもらいました。今年は大変頑張りました、区間2位で走り抜けました。

留萌自衛隊が富士登山駅伝に参加して今年で18年目になりますが、ここまで盛り上げていただいているのは留萌市からのご支援・ご声援、後援会の現地での応援のお陰だと思います。会場では赤いポロシャツを着て、メイン会場で留萌・留萌と応援していただいているので、心強く思っております。自衛官は走る事が仕事ではありませんが、走らなければ体力がつかみませんので、自衛官は駆け足をいたします。その中で選抜さ

れた者が代表となり、駅伝の選手となります。やはり、駅伝があるから若い者が目標にして走り、伝統が続いているのだと思います。

北海道でも留萌の他に遠軽、旭川の特科、上富良野の戦車などがあります。今年から帯広の4連隊のチームも出ていますが、あまり良い成績を残してはおりません。やはり成績を残しているのは、この様な環境で声援をいただいているからだと思選手も自覚して練習をしているからだと思います。私も大変プレッシャーを感じて監督として2年間やらせていただきまして、胃が痛い日が何日もありました。その時はお酒でごまかしておりましたが、これからも全国一を目指して留萌をアピールして行こうと思っております。今後ともよろしくご支援ご声援をよろしくお願いします。

来年の抱負は優勝して留萌市内を優勝パレードする事です。また私自身としては監督を続行していきたいと思っております。今後ともよろしくお願い致します。ご清聴ありがとうございます。本日はありがとうございました。



例会プログラム【9月】

9月5日(水) 来賓卓話 地域おこし協力隊 大野 菜摘 様、西岡 潤二 様

9月12日(水) 来賓卓話 「留萌地域人材開発センターの役割」 兜 所長